

『花粉症』のお薬を知って、花粉の時期を乗り切ろう♪



薬剤科 薬剤師
大橋 克也

皆さんは『花粉症』に罹ったことがありますか？

地域によって『花粉症』の原因植物の特徴や飛散期も異なりますが、2月～4月にかけては、全国的に“スギ花粉”の飛散時期を迎えます。

“スギ花粉”は原因植物の中でも代表的な花粉です。

今回は、これから迎える花粉の時期に向けて、『花粉症』のお薬についてお答え致します。

Q1. 『花粉症』の治療にはどんな種類がありますか？

花粉症の治療には大きく分けて、薬による「薬物療法」、アレルギーの原因となる抗原物質を特異的に治療する「アレルギー免疫療法」、外科的に治療する「手術療法」があります。

薬物療法で使われる薬は内服薬・点鼻薬・点眼薬などがあり、症状に合わせて2、3種類を組み合わせることで症状をおさえることができます。

Q2. 花粉の種類によって、効く薬の違いはありますか？

薬物療法による治療は花粉症の症状に対する対処療法ですので、花粉の種類によって効果が異なることはありません。ただし、免疫療法に関しては症状が出ている原因物質を取り込まないと効果がありませんので、花粉の種類の特定が必要です。

Q3. 受診をして処方してもらう医療用の薬と市販薬の違いはありますか？

実際に医療用として使用されていた薬を市販薬として発売する「スイッチOTC医薬品」と呼ばれる薬が最近では増えており、効果の高いものが簡単に手に入るようになりました。症状が軽ければ市販薬でも良いと思いますが、副作用が出た場合や花粉症の症状がひどい場合は、医師の診断を受け、症状に合った薬を服用することが望めます。

Q4. 毎年薬を飲んでいるのですが、根本的に治す治療法はありますか？

アレルギー症状の原因物質(スギ花粉症であればスギ花粉)を少量ずつ体内に取り込むことで長期に治療効果が継続する「アレルギー免疫療法」というものがあります。注射によって体内に取り込む方法と錠剤や液剤によって口から取り込む方法があり、効果が発揮されるまでに長期的な治療が必要とされます。

他には外科的な「手術療法」ですが、季節性の花粉が大量飛散する年では効果が不十分の場合があります。その場合は、免疫療法や薬物療法などの併用が必要となります。

Q5. 『花粉症』の薬はいつから飲み始めるのが有効ですか？

花粉が飛び始める1週間程度前から薬を飲むことで症状を抑えることができます。ある程度花粉の飛散シーズンに入ってからでも服用を開始することにより、効果が発揮される薬もあります。

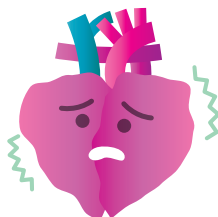
薬の種類によっても異なりますので、お気軽に薬剤師にご相談ください。



『慢性心不全を抱える患者さんが安心して自宅療養できるようサポートします』

聖隷佐倉市民病院 B2病棟 慢性心不全看護認定看護師 宍倉

心臓は、血液を全身に送り出す、ポンプの役割があります。『心不全』とはポンプとしての役割が不足した状態であり、肺や全身に水が溜まったり、疲れやすくなるなどの症状が現れます。心不全になると、増悪(症状が悪くなること)と寛解(症状が良くなること)を繰り返し、徐々に進行していきます。



近年、高齢化や生活習慣の変化により心不全になる人が増加しています。現在は、糖尿病や高血圧、肥満などがあるだけで、すでに症状のない心不全を起こし始めている方がいることが分かっています。心不全の進行を予防するためには自分で生活を管理していくことがとても大切です。

慢性心不全看護認定看護師(※)は、患者さんと家族の希望や意

(※)認定看護師とは、看護師免許を有するものが、日本看護協会認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することが認められた者をいいます。

参考:《日本看護協会》

URL:<http://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cn>

向を聴きながら、患者さんが望む生活を長く送れるよう、具体的な生活の管理方法について一緒に考えていきます。心不全の原因や症状、薬や食事のことなどお困りごとについては何でもご相談ください。

医師や薬剤師、管理栄養士、理学療法士など多職種からなる循環器チームが一丸となって最善を尽くし、一人でも多くの患者さんが安心して自宅療養できるように支援していきたいと思えます。



循環器チーム

聖隷佐倉市民病院

『12月・1月のイベント情報』



※駐車場有料(¥100/8時間まで)

ロビーコンサートを開催いたします♪

今回は、佐倉楽友協会『ピアノ:安藤華奈子、ソプラノ:丸山ゆり、箏:市川孝観』様による演奏を行います。入場無料で、どなた様もご参加頂けます。魅力・迫力あるステージを是非ご堪能ください。

- 日時：2016年12月10日(土)14:00～15:00
- 場所：1階ロビー
- お問い合わせ：☎043-486-1151(代) 総合企画室

2016年度市民公開講座のお知らせ

第3回『緩和医療について』

【講師】緩和医療科 副部長 村上 敏史

緩和医療(緩和ケア)は、「がんに伴うからだと心の痛みを和らげ、生活やその人らしさを大切に考える方」であり、苦痛緩和を目的に様々なアプローチを行い、患者と家族が自分らしく過ごせるよう幅広い対応をすることです。この幅広い対応について、詳しくお話しします。

- 日時：2016年12月17日(土)
14:00～15:30
(開場13:30～)
- 場所：6階ホール



2015年度 市民公開講座(緩和ケア)の様子

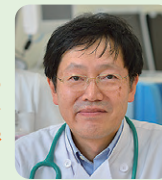
第4回『認知症を予防しよう』

【講師】副院長 兼 健診センター所長 有田 誠司

認知症は加齢でおこるものではなく、あくまでも脳の病気であり、適切な生活習慣や脳トレで予防することができます。また、認知症の前段階で早期発見ができれば治すこともできます。

10年後には65歳以上の方の5人に1人は認知症の危険があると予測されています。このような高齢化社会を迎える今、「認知症とは何か」、「その予防法や早期発見について」、「治療や介護の現状」について、分かり易くお話しします。

- 日時：2017年1月21日(土)
14:00～15:30(開場13:30～)
- 場所：6階ホール



2015年度市民公開講座(がん検診)の様子

どなた様でもご参加頂けます。皆さまのご来場お待ちしております。☆参加無料・申込不要・定員100名

- お問い合わせ：043-486-1151(代) 総合企画室